

第2期西東京市スポーツ推進計画 令和6年度評価及び令和7年度目標調査票

基本目標3 スポーツを通じた地域コミュニティの醸成

※総合型地域スポーツクラブ (I):にしはらスポーツクラブ
(II):ココスポ東伏見

施策の柱	施策	担当課・団体	令和6年度予定	令和6年度評価							令和7年度担当課目標		
			具体的な取組内容	取組実績	担当課・団体の評価とコメント					次年度への課題	具体的な事業 又は取組計画		
					評価の着眼点							担当課・団体評価コメント	評価
					I	II	III	IV	V				
(1) 人・地域がつながる機会の充実	① 若い世代のスポーツを通じた地域参加の機会の充実 スポーツを通して、若い世代の地域活動等への関心を喚起し、ボランティア等の活躍の場や地域参加の機会を充実していきます。	児童青少年課	市内の青少年育成会と連携し、「歩け歩け会」を実施した。 (市内中学生がイベント参加者の安全確保のためのボランティアとして参加)	市内の青少年育成会と連携し、「歩け歩け会」を実施した。 (市内中学生がイベント参加者の安全確保のためのボランティアとして参加)	3	3	3	3	3	青少年育成会と連携し、多くの中学生が参加者の安全確保のためのボランティアとして参加した。地域の活動に参加してくれたことにより、自らが地域のコミュニティの一員であるという意識付けを行うことができた。	B	中学生ボランティアの参加人数の確保	市内の青少年育成会と連携し、「歩け歩け会」を実施 (市内中学生がイベント参加者の安全確保のためのボランティアとして参加)
		指定管理者	GWイベント、スポーツフェスティバルでの親子体験種目の充実	・GWに親子スポーツイベントを実施 ・11月にスポーツフェスティバルを開催	4	4	4	4	4	GWファミリーチャレンジ参加者30名・スポーツフェスティバル参加者149名	A	スポーツフェスティバルの種目の検討	GWイベント、スポーツフェスティバルでの親子体験種目の充実
		体育協会	市民スポーツまつりの実施	スポーツまつりの実施・参加人数約3,700名	4	4	4	4	4	計画通りであった。	A	スポーツまつり実行委員会へボランティアとして参加してもらえるよう取り組む。	スポーツまつり実行委員を募集する。
		総合型地域スポーツクラブ	若い世代には利用頻度は低い現状(II)	もちつき会・夕涼み会実施、地域の方々・スポーツサークルの若い方々が多数参加(II)	4	4	4	4	4	新しい人材の参加増加、家族での参加も多数(II)	A	より多くの人材育成を継続して進めていく。(II)	もちつき会・夕涼み会・各種交流会の実施(II)
			各種プログラム以外のイベントや事業等に、身近で活動している学生など若い世代の参加促進(II)	早稲田大学の他に、武蔵野大学の学生もイベントに参加した。(II)	5	4	5	4	4	地域の大学生が地域活動の協力をしながら、子どもから高齢者までの地域活動に参加する機会ができた。	A	今後も組織的に連携していける関係を構築する必要がある。(II)	現状を踏まえつつ、より良い関係を継続していけるよう取り組む。(II)
		スポーツ振興課 (スポーツ推進委員)	ドッジボール事業に伴う、各学校や保護者との連絡・連携	【3・4年生】令和6年6月3日(日) 105名 【5・6年生】令和7年2月16日(日) 46名	4	4	3	4	4	全体としては計画通り実施できたが、保護者の就労等により参加チームが戻らないこと課題。	A	市内小学校保護者へ周知するも保護者同士のつながりが希薄になり連絡先を知らない方が多く、チームが組みにくい参加申込が減っている。	【3・4年生】令和7年7月5日(土)予定 【5・6年生】令和8年2月14日(土)予定
	② スポーツを通じた多世代間の交流の促進 性別、体カレベルに関係なく、多世代の市民が参加し、スポーツを通して交流を図ることができる各種教室・大会・イベント等を企画・開催します。	健康課	健康ポイントアプリ「あるこ」を活用したウォーキングイベントを開催予定	早稲田スポーツフェスタにて実地イベントの実施	4	4	4	4	4	親子の歩育講座と成人向けウォーキングイベントの同時実施により、多世代が参加できるイベントであった。	A	昨年度は、イベントを実施したが参加者の交流を持つことが出来なかったため、参加者同士の交流を持つことができる企画していく。	市民まつりにて実地イベントの実施
		指定管理者	・スポーツフェスティバルの開催 ・モルック体験会、各種教室の開催	モルック体験会は年5回、スポーツフェスティバルも開催してニュースポーツを体験していただく事ができた。	4	4	4	4	4	モルック体験会、大会では天候による中止があったが、多くの方に参加いただけた。	A	スポーツフェスティバルの開催時期の再検討が必要(市総体等と被ってしまう)	モルック体験会、スポーツフェスティバル、ニュースポーツ体験会の開催
		体育協会	各種大会や育成事業を通して世代間の交流を促進	西東京市総合体育大会やスポーツ教室への参加、ジュニア育成・シニアスポーツ振興事業等を通して世代間交流を促進した。	4	4	4	4	4	計画通りであった。	A	多世代の市民が多く参加できるよう計画し実行する。	・西東京市総合体育大会やスポーツ教室の実施を通して世代間の交流を図る。 ・ジュニア育成では幼児対象事業を実施する。
		総合型地域スポーツクラブ	・グラウンドゴルフ・ポッチャの大会、卓球交流会等企画(II)	グラウンドゴルフ・卓球・テニス交流会実施(II)	5	5	5	5	5	各種交流会を多数実施した。(II)	A	参加者多数で好評、継続していく。(II)	モルック、ノルディックウォーキングを事業として加えたい。(II)
			年数回のイベント・主催事業の開催(II)	年2回の主催イベントを実施、他にも地域イベントなど多数参加して地域交流に努めた。(II)	5	4	4	4	4	主催イベントであるココフェス(春秋)、市民まつり、地域イベントに性別や体力に関係なく参加して楽しめ、地域交流を促した。	A	運営スタッフが不足気味、同じスタッフばかりで負担増は顕著(II)	現状維持も困難になりつつあるので、何とかスタッフも増員しつつ外部の力を借りていきたい。(II)
		スポーツ振興課	・多摩北部都市広域行政圏協議会事業の参加を周知し、市内の方との交流を促進 ・市事業への参加促進	・10月26日(土)に東久留米市を会場とした「たまろくとクリーンウォーキング」を実施した。 ・市報やたまろくナビで周知を図り、広域的な交流を図ることができた。	4	4	4	5	5	性別、体力に関係なく、スポーツを通じて、近隣市と連携した事業を実施することができた。	A	次年度は東村山市が担当市となり、実施内容が令和6年度と変更し、新たな事業(eスポーツ)を予定しているが、構成市の自治体とは、これまで以上の調整が必要となる。	多摩北部都市広域行政圏協議会のスポーツ大会(eスポーツ)の実施
		指定管理者	・屋外管理の委託 ・各イベントの協力	屋外施設は体育協会様に委託 総合型地域スポーツクラブのイベント等に協力	4	4	4	4	4	実施できている。	A	委託経費の高騰	・屋外管理の委託 ・各イベントの協力
		総合型地域スポーツクラブ	プログラム開催およびイベント等への人的支援(II)	東京ドーム(グラウンド作業)等、体育協会とのポッチャ道具等の物品、受付の協力(II)	3	4	3	4	3	連絡を取り合い、各団体とスムーズに協力を行っている(II)	A	参加者の増加(II)	体育協会との連携(II)
指定管理者、体育協会との連携(II)	倉石先生のバスケットボールクリニックの開催(8月)(II)	4	4	4	4	4	4	指定管理者、体協、市内大学及び小中学校、各課との連携しながら実施できた。	A	用具が不足していたり、施設側と事前に打ち合わせが必要と感じた。(II)	施設利用については機会がある際に指定管理者に相談の上、利用したい。(II)		
スポーツ振興課	各団体が将来的に自立できるよう、補助金の精査や運用方法の指導	生涯スポーツ推進事業を市の委託事業として、総合型スポーツクラブや体育協会に依頼し、ウォーキング事業、ニュースポーツ事業を実施するなど、フレイル予防や健康増進に繋がる事業を提供することができた。	4	4	3	4	4	引き続き実施する。	A	次年度も生涯スポーツ推進事業を市の委託事業として実施予定であるが、これまでの取り組みを継続しつつ、実施時期や障害の有無、多世代に渡る生涯スポーツ推進に繋がる事業を検討する必要がある。	・生涯スポーツ推進事業の実施 ・ニュースポーツ事業の実施		
(2) 人材・組織の育成	① スポーツ団体・クラブの支援 地域のスポーツ団体・クラブの一層の活性化を図るため、NPO法人西東京市体育協会等との連携を充実し、活動の場や機会の充実、体制の強化等を支援します。												

施策の柱	施策	担当課・団体	令和6年度予定	令和6年度評価							令和7年度担当課目標		
			具体的な取組内容	取組実績	担当課・団体の評価とコメント					担当課・団体評価コメント	評価	次年度への課題	具体的な事業 又は取組計画
					評価の着眼点								
					I	II	III	IV	V				
②	スポーツ推進委員との連携促進 市民へのスポーツの実技指導やスポーツ活動促進のための組織育成を図るなど市民のスポーツの推進を図るため、スポーツ基本法(平成23年法律第78号)第32条の規定に基づき委嘱されたスポーツ推進委員の人材育成・支援を推進します。	スポーツ振興課 (スポーツ推進委員)	スポーツ推進委員の活動の周知(市民まつりや市民スポーツまつり) ・11月10日 市民まつり スポーツ体験ゾーン「モルック」448人	・10月14日 市民スポーツまつり 約3,700人						参加人数も回復してきており、目的も達成できた	A	秋のスポーツシーズンに事業が続き、毎年イベント内容も固まりつつあるため、参加する目的を再確認する。	・市民スポーツまつり:令和7年10月13日(月・祝)予定 向台運動場 ・市民まつり:令和7年11月8(土)～9日(日)予定 いこいの森公園
③	スポーツを支える人の育成・支援 各種スポーツ大会、イベントでのスポーツボランティアや団体等におけるスポーツの指導者やボランティアの育成・支援の取組を推進します。	指定管理者 体育協会 総合型地域スポーツクラブ	・各スポーツ指導者にイベント時の補助を依頼 ・指導者講習会の開催 体育協会と加盟団体にスポーツを支える新たな人材(役員・指導者・審判等)育成の推進 ボランティアの育成、支援を検討(に)	屋外イベント等で依頼を実施 体育協会及びその加盟団体にスポーツを支える。新たな人材の育成人数は少なかった。 もちつき会・夕涼み会を若い世代が手伝う。(に)						屋外イベント指導員派遣を依頼 指導者講習会の開催未実施。 取り組みは行ったが、結果に結びつかなかった。 夕涼み会、もちつき会への支援 チラシ配布の協力(に)	B B A	指導者講習会の種の選択が困難 体育協会役員の人材発掘と加盟団体における役員・指導者・審判の育成に努める。 より多くの次世代の育成(に)	・各スポーツ指導者にイベント時の補助を依頼 ・指導者講習会の開催 体育協会と加盟団体の役員として新たな人材を発掘する。 もちつき会・夕涼み会・各種交流会の実施(に)
			指導者の育成、スタッフの確保(コ)	おもに部活動地域移行・連携に伴い、大学生(院生)の育成など取り組んだ。(コ)						トラブル対応の課題があったものの、学生ボランティアの育成に取り組んだ。	A	人気プログラム専属講師のケガ離脱によりサポート面の脆さが露呈した。(コ)	あらゆる場面を想定して危機管理も含めた体制強化に努めたい。(コ)
		スポーツ振興課 (スポーツ推進委員)	スポーツ推進委員の各種資格取得、講習参加啓発	スポーツ推進委員会に、東京都スポーツ推進協議会から紹介される講習会等の周知を行った。						引き続き、必要な各種資格取得等の情報共有により、育成支援に繋げたい。	A	引き続き、未取得の推進委員に周知をしていく。	初級・パラスポーツ指導員資格等、スポーツ推進委員活動に生かせる講習への参加周知を行う。
④	パラスポーツ・インクルーシブスポーツを支える人材の発掘・育成【再掲】 障害のある方がスポーツを行うきっかけづくりや継続する取組を支えるため、パラスポーツ・インクルーシブスポーツの指導者や当事者を支援する人、事業の運営を支援するボランティアスタッフなど、支える人材の発掘・育成を推進します。	障害福祉課 スポーツ振興課 (スポーツ推進委員)	西東京市障害者スポーツ支援事業委託事業者から提出される事業報告書・補助員報告書・反省会概要をもとに必要に応じて委託事業者と調整・協議を行う。 障害者スポーツ協会との連携	委託事業者から提出された報告書等を確認し、スポーツ支援事業に取り組んだ。 スポーツ相談窓口において、障害者または障害児の保護者からの質問等に対応するため、東京都障害者スポーツ協会や東京都障害者スポーツセンターと指導者の派遣や育成について、連携を図っている。						委託事業者から提出された報告書等を確認し現状を把握した。 障害者スポーツを支える人材の育成を進めていく。	B A	関係各所との連携を図る。特に、人材の発掘・育成はスポーツ所管部門と連携する必要がある。 他自治体との連携	・西東京市障害者スポーツ支援事業委託事業者から提出される事業報告書・補助員報告書・反省会概要をもとに必要に応じて委託事業者と調整・協議を行う。 引き続き各団体と連携し、充実を図っていく。
⑤	大学・民間の人材との連携促進 スポーツを支える人材の指導力向上等につながる環境の充実を図るために市内大学、企業、民間のスポーツクラブ等との連携を強化します。	広報プロモーション課 スポーツ振興課	市報・HP・SNS等を活用して、PR親善大使と連携を取り、市の魅力発信に取り組む 早稲田大学野球教室(春・秋)の実施(選手以外にも少年野球指導者の指導力の向上を目指す)	・西東京市PR親善大使であるシズン卓球部共催で卓球大会を実施。市内外から参加があり、市の魅力を伝える良い機会となった。 ・実施にあたり、市報・HP・SNSを活用して情報発信をし、当日は西東京市マスコットキャラクター「いこいな」の手提げ袋とともに、市のおすすめスポットを記載したパンフレットを配布した。 早稲田大学と連携し、小中学生の野球チームを対象とした早稲田大学野球教室を開催した。児童・生徒間及び大学生との交流の機会の提供、競技力向上を図った。 春季:令和6年6月30日(日) 216人 秋季:令和6年12月8日(日) 214人						PR親善大使を活用した、市内事業者と連携したイベントは、市内外より多くの参加があり、市の魅力を広く伝える契機となったほか、事業者との関係性をより深める効果があった。一方で、施策に位置付けるスポーツ人材の指導力向上という点については、イベント内容等の工夫が必要であるため、連携事業者への協力を仰ぎたい。	B A	令和7年度も引き続き、西東京市PR親善大使等と連携を取り、市内外に向けて市の魅力発信に取り組む。 早稲田大学野球教室内容の変更(エキシビジョンなどでホームラン競争の実施)により、大学生の日頃の成果を見せることにより、子どもたちの今後のモチベーションの向上に繋がるきっかけ作りを目指す。	西東京市PR親善大使の中で、スポーツ選手である大使の方と連携をして、イベントの実施や市報・SNSを活用した情報発信に取り組む。 早稲田大学・早稲田大学競技スポーツセンター・西東京市軟式野球連盟少年部との連携
⑥	学校部活動の地域連携・地域移行の検討【再掲】 部活動は、教科学習と異なる集団での活動を通じた人間形成の機会や多様な生徒が活躍できる場でありますが、教師にとっては長時間勤務の要因となること、指導経験がない等、多大な負担となっていることから、国や東京都は、学校の働き方改革を踏まえた部活動改革を検討しています。 そのことを踏まえ、地域の多様な団体等が学校と連携しながら運営・実施する地域クラブ活動によって、生徒の活動機会を確保していくよう、教育委員会と調整していきます。	教育指導課 体育協会	学校部活動の地域連携・地域移行に関して、協議体で検討する。 ・加盟団体からの指導者派遣 ・相談窓口を通して指導者募集	・西東京市立中学校部活動地域連携・地域移行検討委員会を年間3回開催した。 ・令和7年8月頃を目途に報告書を作成するにあたり、学校教育活動である合同部活動又は拠点校方式のチーム1チーム、学校教育活動でない地域移行チーム1チームをモデル実施する案を得ることができた。 ・加盟団体からの指導者派遣はなかった。 ・相談窓口で指導者を募集したが、学校への派遣は実現しなかった。						西東京市立中学校部活動地域連携・地域移行検討委員会を年間3回開催し、協議を行うことができた。 令和7年8月頃を目途に報告書を作成するに当たり、学校教育活動である合同部活動又は拠点校方式のチーム1チーム、学校教育活動でない地域移行チーム1チームをモデル実施する案を得ることができた。	A B	・合同部活動は、学校教育活動であるため、教員が引率する必要がある。教員の働き方改革のために、代表顧問による引率を認める体制を構築する必要がある。 ・地域移行チームは、学校教育活動ではないため、教員が顧問になる必要はないが、新たな指導者を配置する必要がある。教員の兼職・兼業を認める体制づくり、中学生を受け入れる団体の開拓が必要である。 行政との連携を通して、実現に向けて協力する。	・西東京市立中学校部活動地域連携・地域移行検討委員会(最終)(以下、委員会という。)を開催する。 ・委員会での検討結果を報告書にまとめ、今後の方針を策定する。 体協加盟団体と外部団体の利用で指導者派遣へ結びつける。

施策の柱	施策	担当課・団体	令和6年度予定	令和6年度評価							令和7年度担当課目標			
			具体的な取組内容	取組実績	担当課・団体の評価とコメント					担当課・団体評価コメント	評価	次年度への課題	具体的な事業 又は取組計画	
					評価の着眼点									
					I	II	III	IV	V					
		総合型地域スポーツクラブ	今後の検討課題(ニ)	中学校からの指導者派遣要望はなかった。中学校運動部への協力、大会準備・運営への協力(ニ)	3	3	2	2	2	中学校より要望が無かったが対応できるよう、情報収集を行い段階的に取り組んでいく。(ニ)	C	情報収集し、実施対応できる体制づくりに努める。(ニ)	情報収集し積極的に参加を目指す。(ニ)	
			現在、市内3校へバスケットボール、サッカー、テニスの指導者派遣しているが、学校別に課題の具体例をピックアップして解決に向けて取り組んでいく必要有(コ)	予定通り市内3校への派遣を継続中(サッカーのみ終了)(コ)	5	4	4	4	4	3月でサッカーの派遣は終了したが、おおむね計画通り実施できた。	A	成長期の中学生相手のため技術指導よりも生活面に課題が多く対応が不味かったケースもかなり目立った。(コ)	管理職(校長・副校長)ではなく、顧問の先生とも連携をしっかりとっていく。(コ)	
		スポーツ振興課	協議体に参加し、関係機関と検討	西東京市立中学校部活動地域連携・地域移行検討委員会にスポーツ振興行政を所管する立場として参加し、学校部活動の地域連携・地域移行に向けて教育委員会をはじめ関係機関と検討を行った。	5	4	3	5	3	部活動の地域連携・地域移行に向けて、移行に伴い移動など子どもの安全確保や受け皿の整備が必要。	A	学校部活動の地域連携・地域移行に向けた課題整理が必要である。	引き続き協議体に参加し、教育委員会をはじめ関係機関と調整・検討する。	
(3) 地域スポーツの推進	①	総合型地域スポーツクラブの活動支援	指定管理者	総合型地域スポーツクラブとの連携事業開催を検討	ココスポ東伏見様とバスケットボール教室、にはらスポーツクラブ様とはラグビー教室を実施	4	4	4	4	4	連携事業を実施した。	A	種目選別が困難	総合型地域スポーツクラブとの連携事業開催を検討
		総合型地域スポーツクラブの地域での認知度向上や市民の総合型地域スポーツクラブへの参加拡大を促進するため、市報やホームページでの情報提供や各種教室等の開催支援に取り組めます。	スポーツ振興課	各クラブの活動について、市報等広報を行う。	総合型地域スポーツクラブ(2団体)の会員増を図るため、教室事業等を市報に掲載し、活動内容を周知することができた。	4	4	4	5	5	引き続き市報等で情報提供を行い、新たなメンバーを増やすことに努める。	A	総合型地域スポーツクラブの認知度を向上させるよう、情報提供のあり方について検討する必要がある。	各クラブの認知度向上や活動支援について、総合型地域スポーツクラブと連携して取り組む。
		総合型地域スポーツクラブと地域団体との連携促進	指定管理者	総合型地域スポーツクラブとの連携事業開催を検討	ココスポ東伏見様とバスケットボール教室、にはらスポーツクラブ様とはラグビー教室を実施	4	4	4	4	4	連携事業を実施した。	A	種目選別が困難	総合型地域スポーツクラブとの連携事業開催を検討
		総合型地域スポーツクラブと地域団体との合同練習会、合同イベントなどの開催支援や指導者同士の交流の機会の拡充支援に取り組めます。	体育協会	スポーツまつり、リレーマラソン、ジュニア・シニア事業を通して総合型地域スポーツクラブとの連携を検討する。	スポーツまつり、リレーマラソン、ジュニア・シニア事業で総合型地域スポーツクラブにはらスポーツクラブとの連携はできた。	4	4	4	4	4	計画通りであった。	A	ココスポ東伏見との連携を行政とともに検討する。	スポーツまつりでココスポ東伏見との連携を検討する。
			スポーツ振興課	地域で実施する祭り等の事業に市としても出席するなど、地域の連携を目指す。	総合型地域スポーツクラブの各活動拠点付近で実施する祭りなどにおいて、積極的に参加し、各クラブのアピールを実施した。	4	4	4	4	4	引き続き総合型地域スポーツクラブ及び地域団体との連携促進に取り組んでいく。	A	安定したクラブ運営をするためには、会員増は必須である。各活動拠点でどのような連携をしていくのが課題	市民まつり等、地域で実施するまつりに参加または連携する。
		学校施設や身近な空間・場所の有効活用【再掲】	地域学習支援課	スポーツ団体に対し、学校教育の支障のない範囲で各学校施設開放運営協議会や学校と連携・協力し、市内の学校施設の貸出を行う。	学校教育に支障のない範囲で学校施設の地域開放を実施することができた。令和6年度においては、前年度と比較し同程度の開放を実施した。	4	4	4	4	3	各学校施設開放運営協議会や学校とは常に連携を取りながら、学校教育に支障のない範囲内で、可能な限り学校施設の貸出を行った。	A	・学校施設の建替えにあたり、市立小中学校における学校施設の地域利用の推進を目指す。 ・学校施設使用申請手続き方法の改善	・学校施設の建替えにあたり、市立小中学校における学校施設の地域利用の推進を目指す、特別教室ごとの特徴を捉えた対応策のまとめ ・学校施設使用申請手続きの利便性向上の調査・検討
	スポーツ施設以外にも学校施設や公民館、市民交流施設といった公共施設、公園等をスポーツ活動の場として活用する取組を推進します。また、地域住民が生活に身近な場所で自主的にスポーツ活動ができるよう、スポーツを実施する環境を充実していきます。	体育協会	身近でスポーツの出来る場を確保するため、関係部門との検討	ジュニア育成事業で学校施設を利用して事業を実施できた。	4	4	4	4	4	計画通りできた。	A	行政と連携して学校施設等の利用ができるよう検討する。	今年もジュニア育成で学校施設等の利用ができるよう働きかける。	
		総合型地域スポーツクラブ	公共施設等の不足もあり、身近な場所で自主的に活動が出来にくい状況有(ニ)	教室を予約しヨガ・フラダンス・型染めを実施。グラウンド・体育館で各種教室・サークルへ提供(ニ)	5	5	4	5	4	ヨガ・フラダンス教室予約各月4回、型染め月2回定期的に実施。総合体育館を借り小学生バドミントン大会を実施(ニ)	A	市報・ホームページを活用しているが認知度向上しない。(ニ)	にはらスポーツクラブのホームページの充実(ニ)	
			積極的な施設の活用(コ)	公共施設・学校施設や民間施設も積極的に活用して実施した。(コ)	4	4	4	4	4	引き続き学校、行政と連携しながら実施する。	A	大きな課題はなかったものの時々場所が変更された場合、間違えてしまう会員が目についた。(コ)	様々な手段を活用して連絡をより徹底していく。(コ)	
		スポーツ振興課(スポーツ推進委員)	保谷庁舎跡地を活用し、モルック等ニュースポーツ体験会を実施	保谷庁舎跡地を会場としたモルック体験会や、指定管理者主催のモルック大会を実施 令和6年12月7日(土) 令和7年3月29日(土)	4	4	4	4	4	市内外から子どもから大人まで多くの参加者を募り、市民に身近な保谷庁舎跡地で大会を開催することができた。	A	雨天時の対応を検討する。 保谷庁舎跡地の今後の活用状況を確認する。	指定管理者と連携を図り、引き続き地域の身近な場所でのスポーツ・運動機会を提供する。	